

情報 I メディアとコミュニケーション

教科書 pp.26-33, (pp.34-37 は読んでおいて)

メディア

・(①)

・メディア(media)は medium の複数形

・medium: <<情報伝達などの>>媒体, 媒介(物),
メディア; 手段, 方法(ウィズダム英和辞典 第4版)

・メディアの分類

・(②) : 情報を表現する手段

・(③) : 情報を伝達する物体

・(④) : 情報を送受信する仕組み

情報メディアの発達の歴史

・口頭→筆記→印刷物→電信・電話→ラジオ→テレビ→電子メール

・データが増えていくような, 制約を無視するような進化

・表現メディアの観点から, 文字から音に, 音から動画に進化

・伝達メディアの観点から, 時刻に依存しないメディア(印刷物の紙)や場所に依存しないメディア(電話の電気信号)に進化

メディアリテラシー

・二つの能力の総称(いろんな説明がある)

1. (⑤)

2. (⑥)

・受け取った情報は(⑦)

・情報の信用できる度合い(⑧)が保証されていない

・情報そのものの内容が正しいか間違っているかの度合い

・インターネットだけでなく, 新聞や書籍にも間違いはあります

・情報の精度や正確さが損なわれていない度合い(⑨)の問題もある

・伝達過程における問題の度合い

・不正アクセスやプログラムの誤り, ノイズによる伝達ミスによる間違いがありうる

コミュニケーション

・(⑩)

) (表現メディアによる情報)の交換により,

(⑪)

)

・友人と話す, 配信を見る, 本を読む, 信号・標識を見る

・コミュニケーションの分類

・発信・受信者の人数による分類

・1対1(個別型): 会話や手紙, 通話等

・両者で情報を送受信し共有する

・秘匿性を高めたり親密な会話をしたりできる

・1対多(マスコミ型): テレビ等

・1人(1組織)が情報源となって発信する

・複数の人が同じ情報を共有できるが, 解釈のブレによる

・多対1(逆マスコミ型): アンケート等

・複数の人が情報源となって発信し, 1人(1組織)が情報を受信する

・多くの情報を得ることができるが, 間違いも存在することがある

・多対多(会議型): 会議等

・複数の人がそれぞれ対等に情報源となって発信し, それぞれが情報を共有する

・多くの情報を得られる一方, 注意が散ることもある上に感情が見えづらくなる

・発信・受信者の位置関係による分類

・直接コミュニケーション: 会話

・相手と対面して同じ場所でのコミュニケーション

・非言語情報(表情, 声のトーン, ジェスチャー等)が伝わり, 誤解が起きづらい

・間接コミュニケーション: 手紙

・相手が離れたところにいて, 非対面でのコミュニケーション

・文字だけ, 音声だけであり, 誤解が起きやすい面があり, 心理的な距離感をとりやすい面もある

・発信・受信者の同期性(コミュニケーションのタイミング)による分類

・同期型コミュニケーション: 電話

・情報の発信とほぼ同時に情報が受信されるコミュニケーション

・やりとりが早いが, コミュニケーションの記録がしづらい

・非同期型コミュニケーション

・情報を発信してから受信されるまでに時間的な差が生じるコミュニケーション

・忙しくてもコミュニケーション可能で, タイムラグに意味を持たせる場合(未読無視等)もある

参考

・【神楽めあ/切り抜き】自分のバイト経験を活かして、新社会人にアドバイスをする神楽めあ

<https://www.youtube.com/watch?v=mSoEAhnAIDk>

